



平成29年7月21日(金)

地域支援センターさくらぎセミナー

テーマ「発達障がいのある児童生徒の二次障害への対応」
～愛着障害を中心として～

今年度のセミナーは、講師に宮城教育大学の植木田潤先生をお迎えして講演会を開催しました。その後、2つに分かれて分科会を行いました。

講演

植木田先生には、発達障がいのある児童生徒の特性や思春期に生じやすい二次障害への対応についてお話いただきました。二次障害の捉え方（分類や現れ方など）や子どもの不安が高いと陥りやすい心理状態、一般的な対応の例について、具体的な支援の事例を通して教えていただきました。特に、人との関係性の中で育つ愛着に視点をおき、発達障がいのある児童生徒で愛着に問題を抱えるケースに対して、アタッチメント（愛着）の意義と、養育者やかかわり手のアタッチメントスタイルの影響についても、教えていただきました。参加者からは、「時間が足りなかった。」「続きをもう一度聴きたい。」と熱烈な要望があがる講演会でした。
植木田先生、ありがとうございました。



【植木田先生】

具体例が
分かりや
すい！



—参加者の感想より—

- ・愛着について、中学生になった子どもでも、一人の大人との関係で安定した情緒をつくっていくことができることがわかった。丁寧にかかわっていきたいと思う。
- ・同僚にも伝えたい。通常学級に在籍する発達障がいのある生徒へのかかわり方、保護者へのアプローチの仕方が変わるのではないか。2学期から生かせそうな内容だった。
- ・アタッチメントについて具体的に聞けて、また環境によって変化が望めることに期待感をもつことができた。・事例研究で理解の深化を図りたい。

分科会では、様々な立場の先生方が悩み考えながらの取組の様子や、各校の現状について語られました。アンケートには「課題と対応策について共有できた。」「就学支援の話しが参考になった。」等の感想が挙げられました。



ご参加いただき、ありがとうございました。

